

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第0191600030号		
法人名	社会福祉法人 上ノ国福祉会		
事業所名	グループホーム 勝山		
所在地	北海道檜山郡上ノ国町字勝山136番地の3		
自己評価作成日	平成25年7月31日	評価結果市町村受理日	平成25年10月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0191600030](http://index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0191600030)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①昼・夕食前の体操を行い、身体機能の低下を防ぐように努めている。②外気浴・日光浴に力を入れており、なるべく天気の良い日は外にできるようにしている。③畑を作り、収穫の喜び・楽しみがもてるようにしている。④誕生会はその日におこない、その方の食べたい物をできる限り提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年9月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山と川と海に囲まれた、自然豊かな小高い丘の上にあり音懐かしい子供の頃に会った、故郷のような景色を思い起こす環境の中で、利用者と職員が、「地域の人々と携えて、心豊かに明日を生きる」の理念に基づく実践に取り組み、実現に向けた共同生活を営んでいます。食事の支援については、町役場の栄養士から献立の指導を受けた栄養士と、味付けの時に塩分濃度計で過剰な塩分摂取にならないように測定するなど、細心の注意を払っています。又、おはぎやバーベキュー等、利用者の好みや意向の把握に努め、「食」を通じて色々な取り組みに生かす楽しい雰囲気づくりに努めています。入浴でも、温泉の活用や気の合う二人で入浴して、お互いに背中を流し合うなど、コミュニケーションの場となり、くつろいだ気分で入浴が出来るよう工夫しています。利用者の好む外出では、年3回職員・利用者全員で弁当を持ち、上ノ国町内や江差町まで車でドライブをし、皆一緒に食事を楽しむなど、積極的な外出支援に取り組んでいます。又、利用者の家族から、タオルで手作りの象を頂き、利用者の名前を表示して居室前につけ、表札代わりに使っていますが、災害時避難の有無の確認に、目視が素早くできる使い方もあり、アイデアや工夫が見られます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を理解し、日々実践し努力している。	設立当初は、法人理念に基づき事業所の運営にあたって来ましたが、地域密着サービスの意義を踏まえて、職員全員が話し合い、事業所の理念を作成し、その理念を柱として三つのケア理念を設置し、利用者の介護にあたっています。現在は、年間目標も立て職員が共有しながら介護の実践に生かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	お祭りの見学や保育所からの慰問などを行っている。	地域のお祭りには山車が来て、お囃子・踊りを披露してくれます。利用者は、笑顔一杯の手拍子で楽しんでいます。また、保育園園児が訪問の折、お遊戯を楽しんだお礼に、利用者手縫いの雑巾をプレゼントするなど、地域との積極的な相互交流に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では行われていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議で、ホーム内での取り組み・状況等を報告しアドバイス・助言をいただいている。会議後には家族全員に議事録を送付している。	推進会議には、町役場と包括支援センターの職員、家族代表の他、地域の代表の消防団長と民生委員等が参加し、活発な意見や助言があります。推進委員の助言で、保育園児の訪問や塩分計を取り入れ、利用者のサービス向上に繋げています。	運営推進会議の実施については、運営規定や重要説明書にも定めと説明がありませんので、その目的や開催回数、委員などが分かるように明文化が出来るよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加していただいている。困難な事例を相談したり、退院後の入居者の今後について相談したりしている。	町役場と包括支援センターとは、介護保険の更新申請やホームのお便りを届ける時など、日ごろから、利用者の暮らしぶりの報告をはじめ、困難な介護の事例を相談して助言を受けるなど、積極的に連携を図り、介護サービスの向上に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については正しく理解しており、法人全体の会議や報告会などで定期的に学ぶ機会を設けている。	外部研修会には、法人全体で取り組み、代表が参加して報告会を実施し、職員間で共有認識を図っています。また、独自に、「拘束廃止に関する指針」と「手引き」を作成し、職員が見られる場所に置き、理解を深めています。利用者が歩き回った時には、その行動に寄り添い、安全面に気を付けながら、求めるものを汲取る努力をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努め、職員会議・法人内の報告会などで定期的に学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用する機会は無く、制度の周知には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約結ぶ前にホームの見学をしていただき、説明をしている。重要事項説明書を十分に説明した上で契約をかわしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・苦情についてはその都度受け止め、運営に反映させているが、外部者へ表す機会は設けていない。	家族の意見・要望等は、訪問の折に、または電話で気軽に話せる雰囲気づくりに努めています。家族から着衣と季節感の気付きや食器用具の指摘があり、速やかな改善に努め、介護に反映しています。利用者の生活情報は3～4か月に1回発行する通信にて、写真を主に掲載し提供しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、その他にも意見・提案を聞くように努めている。	職員とは、何時でも気軽に意見交換が出来、月に1回の会議と年1回の個人面談等において、利用者情報や勤務等の要望も聞いています。職員の提案でバーベキューの実施や利用者の好む食材の手配などアイデアを事業所運営に生かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得をするための支援をしている。資格得後は資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。研修後は法人内の研修報告会などで、参加できなかった職員にも周知できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・介護支援専門員が研修に参加し、交流をすることはあるが、職員は同業者と交流する機会は少ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人の意向を聞くように努めている。思いを伝えられないことが多いため、家族にも同席をしてもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時等に家族の意向を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に合わせた必要な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度・畑仕事・昔の行事などを学ばせていただき、日々の生活に生かしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者に何かあればすぐに報告し、家族に協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できるように支援している。知人や近所の方が来られた時には、周りを気にせず談話できる雰囲気を作るよう心掛けている。	本人や家族からこれまでの状況を把握し、馴染みの関係が途切れることのないように努めています。友人・知人の訪問時には、部屋で自由に歓談できる環境づくりに努め、お茶のサービスや気楽に過ごせるような声掛けをして、継続的な交流に繋がる支援に心掛けしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者には声掛けを多くし、レク等に参加を促している。また、訴えをよく聞き、対立しないように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の要望を聞き、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を聞き、把握できるように努めている。	基本は、利用者と家族の協力で、職員全員が一人ひとりの意向と思いに心を向けて把握に努め、介護計画に取入れています。家族からの意向等が把握不可能な場合は、利用者に寄り添って表情や行動などから汲み取り、職員間で求める過ごし方を話し合い、共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の生活状況をできるだけ詳しく把握し、全員で共有できるようフェースシートを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活パターンを職員全員が把握し、日々申し送っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、サービス担当者会議を開き介護計画を作成している。	定期的な介護サービス関係者会議では、利用者に関する本人・家族の意向や思い、要望の情報を話し合い、その結果を介護計画の作成に反映しています。又、作成した計画は、変更点などについて来訪時、又は電話で説明して了承を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のバインダーを用意し、日々の生活がわかように細かく記録用紙に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向に添えるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在ある地域資源の活用に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な主治医への受診支援を行っている。適切な関係・医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の定期的診療、又変化に応じた診療は、江差町までは事業所が受診対応を、歯科医については、かかりつけ医が、利用者の状況に応じた訪問診療を行っています。家族には、受診状況を、逐次来訪時又は電話で報告を行っています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の特別養護老人ホームの看護師に利用者の状態を相談したり、体調不良時には様子を見てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、早期退院に向けて病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状態に変化がみられた時には、家族と今後の相談をおこなっている。	事業所の方針・指針と家族との話し合いの文書化迄には至っていませんが、重度化等身体状況の変化に対する職員との認識は、日頃から話し合い、現在の地域医療の現状を踏まえて、統一した見解を共有しています。	随所に様々な改善点の努力が見られますが、重度化や終末期の対応は、方針・指針の文書化にあわせ、意志確認書等の文書化は、利用者と家族には、重要かつ不安解消のための必要事項なので、早急に取り入れるよう、期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	度随時応急手当の講習に参加している。書籍も用意し、いつでも見られる体制にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。その年により、訓練の方法を変えて行っている。協力体制も整っている。	防火・防災訓練は、消防署の指導のもと、6月に日中を、9月には夜間を予測して、利用者とともに訓練を行っています。防災連絡網には、消防団長など地域と系列施設などの協力体制を整備しています。食料・水・おむつ等は4日間程度備蓄があります。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気を付けている。方言や、利用者に合った言葉掛けを心掛けている。	呼び掛け、声掛けには、言葉遣いとトーンに気を付け、共通の方言を使うように心掛けています。介護日誌は、イニシャルで標示して守秘義務に注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	持てる力を発揮できるよう、見守りに重点を置き、できる限り自分で納得して生活できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には決まりや都合を優先させてしまい、反省することもあるが、希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服選びが困難な利用者には、職員が状況にあった衣服選びをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り・準備・片付けは、毎食とはいかないが、行っていたりしている。献立は好みに添えるよう工夫している。	献立は、利用者の好みを職員の情報で組み込み、主食は管理者が、副食は職員が担当しています。又、食材の前処理、刻み、味付けなどの調理と配膳・後片付けまで職員と自主的に利用者が共同で行い、楽しい食事の雰囲気づくりに努めています。	職員と利用者が、ともに同じテーブルを囲んで食事を取り、語り合い、さらに楽しめる方法を職員と早期に話し合い、検討することを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事をチェックし、必要量が確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて、声掛け・一部介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートに記入を行い、パターンを把握している。自ら排泄にいけない利用者には、声掛け・誘導・介助を行っている。	トイレ利用のチェック表を作成し、水分摂取量にも気を付けながら、時間を見てさりげなくトイレ誘導を行っており、日中は、自主的なトイレ利用が多く、リハビリパンツで過ごすなど、習慣やパターンの状況に応じた排泄支援をしています。又職員の発案で、トイレに「いいよ」の札を掛けたところ、使用中誤ってトイレのドアを開けることがなくなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼・夕食前に体操を行い、廊下を歩くなどの歩行運動を行うようにしている。また、こまめに水分補給できるよう声掛け・提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は火曜日・金曜日・希望があれば、日曜日に入浴していただいている。	入浴は温泉を引き込み、原則、曜日を決めて楽しんでいます。週2回の利用については、利用者の希望を取り入れて弾力的に対応しています。立位を保てない利用者には、シャワー浴に、体に温泉をかけて流し、温泉入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、見守り・声掛けを行っている。眠れない利用者に対しても状況に応じて対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のバインダーに服薬内容等を記入・ファイリングしている。職員は使用している薬について理解している。専用用紙に服薬をチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力に応じた役割(畑仕事・家事)を持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などは希望に応じて行っている。天気の良い日は外へ出るように積極的に声掛け・見守り・付き添いを行っている。	事業所の周りは、緑が一杯で、車道より離れていることから、散歩には最適の位置にあります。天気の良い日は、付添・見守りながら森林浴と日光浴を楽しんだり、車で街の中をドライブするなど支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり使えるように支援している。所持が困難な利用者には、家族の了承を得て事務所に保管している。必要時にはすぐ使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の希望に応じて手紙の代筆・電話の取り次ぎなどを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置物・作品・花などを飾り、季節を感じられるようにしている。	廊下幅は広く、その両側に居室とトイレ・お風呂・洗濯室・乾燥室が配置され、廊下の両端には非常口があり、職員と利用者の活動には死角の少ない、分かりやすい配置となっています。ホールには大型テレビと大きなソファが配置され、ゆったりとした雰囲気と居心地の良いスペースとなっており、利用者がくつろぎ雑談をして心身の活力を引き出す場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にソファを置き、独りで過ごしたり気の合った人同士で語り合えるようスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や、使いやすい物などを使用し、心地良く過ごせるようにしている。	居室は6畳から7畳と広く明るく、ベットや馴染みの箆笥や整理棚、食器棚を置いてゆったりとしたスペースがあります。持ち込み品には規制がなく、懐かしい写真や絵なども飾られています。又、利用者自身、又は利用者と職員が余暇時間に作った、手の込んだ折り鶴や手毬、塗り絵、ちぎり絵、布や糸の貼り絵の作品が並ぶなど、これらを眺めては笑顔があふれ、居心地良い環境となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所に目印を付けて、わかりやすいようにしている。利用者合った日課を作り、できることを行ってもらっているようにしている。		